

# はじめに

---

## 1 背景と目的

あわら市には、緑豊かな山々、市の中心部を流れる竹田川、県内第3位の大きさを誇る北潟湖、様々な作物が育つ丘陵地、広大で稲作が盛んな田園地帯、そして越前加賀国定公園に指定されている日本海の海岸線などの豊かな自然を始め、時代を超えて受け継がれてきた歴史・文化、伝統産業やそれらに育まれた生活など、国内外に誇ることができる数多くの魅力的な資源があります。

2006年3月にあわら市総合振興計画を策定し、「ゆうゆうと 人が輝く いやしと創作のまち」を基本理念に各種の施策を進めてきました。

2015年3月には北陸新幹線金沢開業を迎え、開業効果で2015年のあわら市内の観光入込客数は20年ぶりに200万人を突破し、宿泊客数は93万7千人に達しました。

しかしながら、北陸新幹線効果は徐々に落ち着きを見せはじめ、2017年には開業前と同程度の水準に戻ってきています。

当市の人口は、1996年の32,527人をピークに、以降減少傾向に転じています。人口減少とそれに伴う経済活動の縮小により、税収入の減少や加速度的な高齢化の進行に伴う社会保障費の増加が見込まれており、財政状況はますます厳しさを増していくことが予想されます。こうした中、地域内の経済を活性化するため、国内外の観光客を呼び込み外貨を獲得し、地域内で循環させていくことは地方都市にとって喫緊の課題となっています。

日本においては、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催、2025年の大阪万博開催など、インバウンド需要の増加が見込まれる大きなチャンスが控えています。国内の旅行客だけでなく、世界のお客様を招き入れる準備をし、国際的な観光地へと変化していかなければならない時期にきています。

今後はこの大きなチャンスを生かしながら、目前に控えている2023年の北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けて、その開業効果を市内全域、また嶺北エリア全域に波及させるべく、更に緻密な戦略を立て計画的に観光施策を実施し、誘客拡大や観光消費額の増加につなげていく必要があります。

このことから、総合振興計画の下位計画として、あわら市の観光振興の戦略と施策や事業を記載した「あわら市観光振興戦略」を策定することとします。

## 2. 実施期間

本プランの実施期間は、2019年度から2023年度までの5年間とします。

ただし、実施期間中においても、必要に応じてプランの見直しを実施します。